

頁	誤	正
著者略歴	中村正秋 右欄の赤字を追加する。	2006年 名古屋大学名誉教授 著書 「セラミックマシナリーハンドブック」(共著) 「化学工学ハンドブック」(共著)
	立元雄治 右欄の赤字を追加する。	2005年 静岡大学助手(工学部物質工学科) 2006年 静岡大学助教授(同上) 2007年 静岡大学准教授(同上)
119	3行目 臨界圧力 74MPa	臨界圧力 7.4MPa 小数点を追加
119	4行目 力：64MPa(63気圧)	力：6.4MPa(63気圧) 小数点と)を追加
131	2行目 熱風温度 T_G が一定という場合	熱風温度 T_G が入口温度 T_{G1} に等しい場合
133	3行目 式(8.4)	式(8.8)
133	式(8.12) $R_d = -m_0 \frac{dw}{dt} = R_c \frac{w - w_e}{w_c - w_e}$	$R_d = -\frac{m_0}{A} \frac{dw}{dt} = R_c \frac{w - w_e}{w_c - w_e}$ (8.12)
136	2行目 熱風温度 T_G が一定という場合	熱風温度 T_G が入口温度 T_{G1} に等しい場合
138	4行目 式(8.22)の左辺第1項の減率乾燥速度が式(8.12)で表せ、さらに左辺第2項の材料の温度上昇に使われる熱量(材料の加熱に要する顕熱)が無視できる場合、材料の含水率 w が限界含水率 w_c から w_2 に減少するに要する時間を次の式で求めることができる。	減率乾燥速度 R_d が材料内の自由含水率 $w_f = w - w_e$ に比例する場合(図 5.1(a)参照)、減率乾燥速度 R_d は式(8.12)で表される。ただし、この場合の定率乾燥速度 R_c は式(8.20)より次の式となる。 $R_c = \frac{\alpha(T_{G1} - T_{mc}) + \beta(T_h - T_{mc})}{r_w A}$ (8.23) ($\alpha = hA, \beta = U_K A_K$) 式(8.23)を式(8.12)に代入して次の式がえられる。 $-m_0 \frac{dw}{dt} = \frac{\alpha(T_{G1} - T_{mc}) + \beta(T_h - T_{mc})}{r_w} \frac{w - w_e}{w_c - w_e}$ (8.24) 式(8.24)を積分すると、限界含水率 w_c から含水率 w_2 まで乾燥するに要する時間 t を次の式で求めることができる。
139	式(8.23) $t_{III} = \frac{m_0(w_c - w_e)}{\gamma(H_{Gm}^* - H_{G1})} \ln\left(\frac{w_c - w_e}{w_2 - w_e}\right)$ $\gamma = hA / C_H$	$t_{III} = \frac{m_0(w_c - w_e)r_w}{\alpha(T_{G1} - T_{mc}) + \beta(T_h - T_{mc})} \ln\left(\frac{w_c - w_e}{w_2 - w_e}\right)$ (8.25)
139	3行目 H_{Gm}^* は、材料の温度 T_m に対応する熱風の飽和絶対湿度であり、通常は、時間とともに変化する。ここでは、この値に減率乾燥期間中の平均値を使うなどして一定として取り扱っている。	削除する
139	式(8.24)	(8.26) 式番号を変更する
139	式(8.25)	削除する
139	式(8.26)	(8.27) 式番号を変更する
139	式(8.27)	削除する
141	式(8.30), 式(8.31) T_{m1} T_{m2}	$(T_{m1} - T_0)$ T_{m1} ($T_{m1} - T_0$) に変更 $(T_{m2} - T_0)$ T_{m2} ($T_{m2} - T_0$) に変更 ただし, $T_0 = 273 \text{ K}$ (p.31, 式(3.12)参照)
143	3行目 水分移動および熱移動に関する以下の式が得られる。	「および熱移動」を削除 水分移動に関する以下の式が得られる。

144	<p>2 行目</p> <p>[水分の蒸発に使われる熱量(水の蒸発潜熱)]=[熱風中の熱量減少量]</p> $q_m r_w (w_c - w_2) = G_m C_H (T_{Gc} - T_{G2}) \quad (8.40)$ <p>減率乾燥期間においては, 式(8.35)および式(8.37)の R_c を $\dots H_{Gm}^*$ にこの期間における平均値が使用できるとすると, \dots</p>	<p>二重線の部分を削除</p> <p>[水分の蒸発に使われる熱量(水の蒸発潜熱)]=[熱風中の熱量減少量]</p> $q_m r_w (w_c - w_2) = G_m C_H (T_{Gc} - T_{G2}) \quad (8.40)$ <p>減率乾燥期間においては, 式(8.35)および式(8.37)の R_c を $\dots H_{Gm}^*$ に一定値を使用できる場合(例えば, この期間の平均値あるいは定率期間の値など), \dots</p>
144	<p>式番号</p> <p>(8.41)</p> <p>(8.42)</p> <p>(8.43)</p>	<p>旧(8.40)を削除したため, 式番号を繰り上げる</p> <p>(8.40)</p> <p>(8.41)</p> <p>(8.42)</p>
145	<p>8 行目</p> <p>式(3.9)より, C_H は 1043 kJ/kg-乾き材料となる。</p>	<p>式(3.9)より, C_H は 1049 kJ/kg-乾き空気となる。</p>
146	<p>(iv) 減率乾燥期間の乾燥器容積 から 1 行目</p> <p>式(8.41)</p>	<p>旧(8.40)を削除したため, 式番号を繰り上げる</p> <p>式(8.40)</p>
146	<p>(iv) 減率乾燥期間の計算中の式</p>	$V_{III} = \dots$ $= \frac{(5.0)(1051)(0.2 - 0.05)}{(30)(10) \left\{ \frac{(0.2 - 0.05)}{0.1} - \frac{(5.0)}{(0.1)} (0.053 - 0.028) \right\}}$ <p>$\times \dots$</p> $\doteq \frac{2.44}{2.24} \text{ m}^3$
146	<p>3 行目</p> <p>$0.20 + 3.49 + 2.44 = 6.13 \text{ m}^3$</p>	<p>$0.20 + 3.49 + 2.24 = 5.93 \text{ m}^3$</p>
146	<p>2 行目</p> <p>乾燥器の長さは 3.07 m</p>	<p>乾燥器の長さは 2.97 m</p>
147	<p>式番号</p> <p>(8.44)</p>	<p>旧(8.40)を削除したため, 式番号を繰り上げる</p> <p>(8.43)</p>
148	<p>http://www.ncipi.go.jp/</p>	<p>http://www.inpit.go.jp/</p> <p>変更された</p>
148	<p>http://www.ipdl.ncipi.go.jp/homepg.ipdl</p>	<p>http://www.ipdl.inpit.go.jp/homepg.ipdl</p> <p>変更</p>